



# 学友会 会報

第28号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301  
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL ▶ <http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail ▶ [gakuyu@nakanihon.ac.jp](mailto:gakuyu@nakanihon.ac.jp)

## 新任のごあいさつ

中日本自動車短期大学 学友会会長 神谷 康雄



清栄の事とお慶び申し上げます。

まる思いで。

## 学友会のごあいさつ

中日本自動車短期大学 学長 山田 弘幸



多大なご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

本学は、今年度より、従来の自動車工学科、自動車工学専攻科、車体整備専攻科、留学生別科に加え「モータースポーツエンジニアリング学科（3年制定員50名）」、「国際自動車工学科（3年制定員50名）」を新設し、新たなスタートを切りました。新学科を設置しましたのは開学以来初めてのこ

とであります。 「モータースポーツエンジニアリング学科」は、モータースポーツの世界でメカニックやエンジニアとして活躍できる人材、また、メーカーの開発職やテスト職を目指す人材を育成していきます。カリキュラムにはモータースポーツに関する基礎知識や、レーシングマシンの整備技術、チーム・ルマンとの提携によるフォミュラー日本におけるピット内でのインターンシップ、さらには学生によるレーシングチームを結成しスーパードームJへ参戦し実地教育を行います。 「国際自動車工学科」は、これまでアジア各国（現在13カ国）か

また、「技術者たる前に良き人間たれ」。これが、本学の建学の精神です。技術教育に加え豊かな人間性の育成をおこなうために、全学科共通で「キャリアアディベロップメント（CD）科目」を単位化し導入しました。この科目を通じて「学ぶ動機付け」、「社会人とし

我々も学友会の皆様や社会の期待に応えられるよう、皆様の後輩の優秀な自動車技術者を育成してまいりますので、今後とも尚一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

時大変厳しい中ではございますが前会長のお考えを踏襲し、学友会の皆様のご意見をお聞きし、そしてこの度、学長にご就任されました、山田学長様のご意見、ご方針をお伺いいたし、難局を乗り越えて参る所存でございます。 とくに、母校の本年度は、モータースポーツエンジニアリング科と国際自動車工学科を設立し、海外の留学生の方々にも、さらに門戸を開き国際交流にも推進していきます。

学友会におきましても母校と学友会の考えに添う、新入生の紹介、そして就職活動への力添え等、母校の存続と発展に寄与して参る所存でございます。今後とも、皆様宜しくお願い申し上げます。 最後になりましたが、会報の発行にあたりまして、母校と学友会の皆様に、心より厚く感謝とお礼を申し上げます。

ら多くの留学生を受け入れてきた本学ならではの、主に留学生のための学科であります。最近では企業の留学生採用も活発になってきてあります。国内だけではなく、自動車メーカーの中国現地法人が本学へ採用説明に向いてくるような時代となりました。そんな企業ニーズに応えるため、日本の企業風土、ビジネスマナー、国際関係環境技術等を日本語の補完教育に加えて学び、日本企業の中でアジアの架け橋となる人材を育成していきます。

この意識作りを行っています。以上の教育改革において我々が目指していることは、「車のことなら何でも学べる、車好きの車好きのための大学」であり、「日本のオンリーワンからアジアのオンリーワンへ」であります。日本の各地だけではなく、ソウルで、上海で、バンコクで、クアラ Lumpur で、現地の卒業生に声をかけると快く集まってくれ、同窓会が始まります。大学の財産は卒業生の皆さんであります。卒業生の輪を是非、世界に広げて頂きたいと思

# 教育の質向上を目指して

自動車工学科 学科長 杉谷秀三



学友会の皆様には、日頃から本学の教育、就職、入学生数の確保など多岐にわたりの支援をいただき本当にありがとうございます。

さて、18歳人口が減少し大学全入時代が迫る中、大学・短期大学は高等教育機関としての教育の質の保証はもろろんのこと、学習成果内容の明確化（卒業時に「何が身に付くのか」「何ができるようになるのか」など、更なる教育改革を図ることが強く求められています。本学でも様々な教育改革を進めてまいりましたが、ここでは教育の質向上に向けた取り組みについて、近況をご報告いたします。

第一は、建学の精神「技術者たるまに良き人間たれ」に込められている「ひとつぐり」の理念は本学にとって最も大切な教育の柱であり、この建学の精神に基づく教育理念「人間性豊かな自動車技術者を養成し社会に貢献する」をいかに具現化するかです。自動車工学科では昨年度からカリキュラムを改正し、教養教育の中に人間力（社会人基礎力）教育の充実を図るため「キャリア教育」の授業を取り入れました。自分発見、コミュニケーションの原理、マナーやスタンス、職業観の醸成などの体験学習を通して、学生が社会に

出て生きていくための力（学習力、人間力）の向上を図っています。また、このような「キャリア教育」は、今年度から新設されたモーターリング学科（3年課程）が開始されました。第一期生として、21名の入学者を迎えました。ここには、ディーラーのメカニックだけでなく、モータースポーツ分野のメカニック・エンジニア、自動車メーカー等のエンジニアを志す学生が集まっています。

第二は、従来から設置されている専攻科（自動車工学専攻、車体整備専攻）を自動車工学科のコースとして位置づけ、一級整備士コース、一級整備士コース、車体整備士コースを設定しました。二級整備士コースは従来通りの自動車工学科2年課程のコースです。一級整備士コースは自動車工学科2年と専攻科自動車工学専攻2年の2年課程の一貫教育です。車体整備士コースは自動車工学科2年と専攻科車体整備士専攻1年の3年課程の一貫教育です。これらのコース設定は入学時から学生が将来に対するしつかりした進路意識を持ち、進路目標を確実に達成することを目的としています。

これらの改革に留まらず、今後さらなる教育の質を向上させるため改革を進めていく所存ですが、学友会の皆様にはいろいろな機会を通して本学の教育に対する忌憚のないご意見など頂ければ幸いです。最後に、学友会の皆様のますますのご活躍とご繁栄を祈念いたします。

# モータースポーツエンジニアリング学科って？

モータースポーツエンジニアリング学科 学科長 森本一彦



本年度より、モータースポーツエンジニアリング学科（3年課程）が開始されました。第一期生として、21名の入学者を迎えました。ここには、ディーラーのメカニックだけでなく、モータースポーツ分野のメカニック・エンジニア、自動車メーカー等のエンジニアを志す学生が集まっています。

もうひとつの柱として、フォーミュラカーの入門カテゴリーである「スーパーJ」のマシンを教材としてレースに参加し、レースメカニック・レースエンジニアとしての高度なスキルを身に付けてもらいます。レース以外にも、材料構造、流体、力学、CAD、語学、交通心理種々の解析など、クルマに関わるあらゆる分野を深く学習します。そのための3年課程なのです。

ただし、レースはあくまでも技術者養成の教材であり、実習場です。テレビで観るレースとは異なり、レースに至るまでの過程からレース終了まで、全ての時間が教

育の中身です。おのずと、高い技術力が身に付き、単に勉強したというのではなく、物の見方・考え方から自身の行動まで、普段の人間力を変えてもらう、強化してもらうのが目的です。

従って、華やかな部分のみ期待している学生には向いていません。レースウィークは当然土日ですがメインとなり休みはありません。好きだからこそやっつけていける、夢があるからこそやっつけていける世界なの

これまで述べられてきたように、今年度より三学科編成になり、三年課程の本学科は、自動車整備資格に加えて国際教養と環境工学などの知識を持った国際ビジネススマンを育成しよう、という特徴付けで設立された。定員は50名で、入学者は留学生が対象となっているが、日本人を拒むものではない。

# 国際自動車工学科の発足

国際自動車工学科 学科長 吉田立



これまで述べられてきたように、今年度より三学科編成になり、三年課程の本学科は、自動車整備資格に加えて国際教養と環境工学などの知識を持った国際ビジネススマンを育成しよう、という特徴付けで設立された。定員は50名で、入学者は留学生が対象となっているが、日本人を拒むものではない。

これまで本学では、「日本語別科」の名称で、留学生対象の日本語のブレ教育を行っている。現在の在籍数91名が一年ないし一年半の課程では、日常会話の教育（日本語能力試験三級程度）だけで手一杯

「走る・曲がる・止まる」。このクルマの基本動作に特化し突き詰めたいもの、それがレースです。夢と情熱を持った学生には、これ以上の楽しみはないでしょう。我々教員も、モータースポーツエンジニアリング学科の卒業生は違う、と言われるよう全力を注いでいく所存です。

最後に、学友会の皆様方におかれましては、このような新しい試みに対し、是非とも御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

であり、自動車用語の教育まで至っていない。また、国内の日本語学校を卒業して本学に入学してくる学生の能力も同様である。これを解消する目的で、国際自動車工学科では、自動車工業課では一年で行っている整備教育についての講義・実習（二級認定科目）を三年を掛けてゆったりと行うこととし、特に一年前期には自動車用語や自動車ビジネス用語についての講義などを取り入れて、初期教育を重点的に進めている。さらに、実習は教員（中国人の教員一名を含む）が数人が補助についてくれるようになっている。今年度は、広報期間が短く周知

# 連携の時代

事務局長 太田 悟 実



学友会の皆様には、日頃から多大なるご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

私は10年前に国際情報（シフィツ）専門学校（当時）より本学の広報課に異動し、就職課、学生部を経て、昨年9月に事務局長に就任いたしました。本学を取り巻く環境は厳しい状況ですが、本学の発展のため精一杯精進していく所存でございますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年度の入学生は、会員の皆様の多大なご支援にもかかわらず、227名で過去最低となりました。これは、少子化や若者の「クルマ」離れ、他校との競合激化など

が不足したことで、35名のみが在籍して、このうちの七割が別科卒業生で占めている。国籍は、中国学生が大多数で、ベトナム出身が三名、タイ出身一名が特筆されるだけである。（自動車工業科には、インド、スリランカ、ネパール、マレーシアなどの学生がいる）今後モアシアでの自動車の普及が期待されるので、この地域からの学生にはしかるべき就職先を開拓する必要があるので、学生募集にも力を入れていく必要がある。

今年からは、並行して「留学生セ

ンター」が開設され、九名の教員で留学生の対応をするような制度が作られ、専用の部屋や設備が整備されつつある。日本人学生や地域住民との交流行事などを計画して、日本での生活が円滑に行く様にサポートしていく予定である。留学生の「日ホームステイ・職場体験」などの企画を考えており、学友会の皆さんには留学生の受け入れをお願いすることもありますので、ご理解・協力をお願いする次第です。

の要因が挙げられますが、受験生にとって魅力ある学校、信頼される学校をいかに創り上げていくかが、募集回復の大きな課題と考えています。本学は3年前より教育改革に取り組む、FD、SD、CD活動を行い、カリキュラムの見直しや教育目標を創り上げてきました。また、今年度より自動車工学科の定員を300名に減らし、新たに、3年課程のモータースポーツエンジニアリング学科（MSE学科）、国際自動車工学科（各定員50名）を開設しました。開設初年度の入学生はMSE学科21名、国際自動車工学科は35名で定員に届くことはできませんでしたが、教育内容を充実し次年度以降、定員確保に努めていきたいと考えています。

さて、本学はご承知のとおり東南アジアを中心に海外の教育機関と積極的に提携を行い、留学生の受け入れを進めてきました。昨年度、本学は「ベトナム工商短大」設立のため、ベトナム企業と提携しました。この提携は、本学が教育ソフトの面で支援を行うことが目的で、今年4月より3名のベトナム研修生を受け入れ、同短大教員の育成を行っています。また、タイ専門学校協会との提携や、中国教育部（日本の文部科学省の直轄事業部署である留学サービスセンター）との提携を今年度実施します。

海外提携を進めていく一方、地元、岐阜県の高等学校との高大連携プログラムも今年より立ち上げ、関商工高校及びあずさ第一高校の生徒を受け入れ、高校との連携を強化し募集につなげていきます。このように、今後、海外をはじめ、地元の高校や教育委員会などと緊密に連携を図り、学生募集だけでなく、教育の質向上を目指すことが本学の存続に大きく寄与することと考えています。

学友会との連携については、これまで以上に強く緊密に行い、より良い学校作りにお力をお借りしておりますので、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後に、会員皆様の益々の活躍とご健勝を祈念申し上げます。

私が在学している車体整備専攻科では、本科とは違い主に溶接・板金・塗装などの実習と、本学の文化祭で展示する展示車両の製作です。私は、1年生の時にその話を聞いて、とても興味を持ち、専攻科に進学しました。



専攻科車体整備専攻 縣 宏太郎

私が在学している車体整備専攻科では、本科とは違い主に溶接・板金・

## 在 学 生 よ り

## 登録試験の合格率

技術研修課

平成二十一年三月二十二日に実施された二級整備士登録試験の結果を報告します。

四泊五日の直前合宿を終えた、第四十一期卒業の学生が受験しました。

2級ガソリンの合格率は96.7%、2級ジーゼルの合格率は93.8%の結果となりました。

ガソリンにおいては目標である90%以上の合格率をクリアし、且つ、4年連続で90%を超える合格率を達成しました。

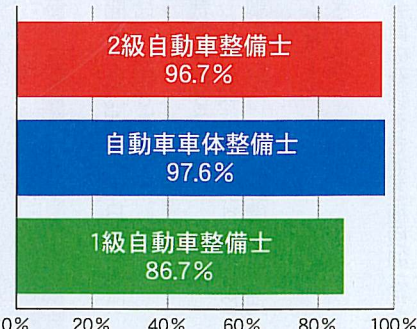
また、ジーゼルにおいても90%を上回り、開学以来最高の合格率となりました。

1級の合格率は86.7%となり、前年の100%には届きませんでした。

まだまだ改善の余地があると反省しております。来年度はより高い合格率100%を目指して全力で取り組んでいきたいと思っております。

最後に、学友会の皆様の益々の活躍と発展を祈念いたします。

【国家資格取得率】



## 2007年度 収支計算書

2007年8月1日～2008年7月31日(単位:円)

## 2007年度 貸借対照表

2008年7月31日現在(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
<b>収入の部</b>				
基本財産運用収入	10,000	102,154	▲92,154	23,803
会費・入会金収入	9,000,000	7,180,000	1,820,000	8,505,000
雑収入	6,000	17,249	▲11,249	11,620
受取利息	3,000	15,949	▲12,949	1,365
雑収入	3,000	1,300	1,700	10,255
特定目的基金取崩益		1,122,482	▲1,122,482	10,850,250
当期収入合計(A)	9,016,000	8,421,885	594,115	19,390,673
前期繰越収支差額(B)	9,656,422	9,656,422	0	4,901,954
収入合計(C)((A)+(B))	18,672,422	18,078,307	594,115	24,292,627
<b>支出の部</b>				
事業費	8,370,000	6,305,634	2,064,366	7,583,654
会報制作費	1,900,000	1,821,020	78,980	1,702,092
特別企画費	0	0	0	1,021,390
エコノパワー協賛金	10,000	3,412	6,588	3,412
記念品費	2,700,000	2,234,588	465,412	2,653,695
支部活動費	1,000,000	614,274	385,726	302,008
広報費	500,000	302,520	197,480	91,480
補助金	400,000	25,900	374,100	50,000
福利費	1,200,000	1,092,000	108,000	1,122,000
奨学金	500,000	200,000	300,000	500,000
名簿改定準備金	150,000	0	150,000	133,707
事業雑費	10,000	11,920	▲1,920	3,870
会議費	2,000,000	1,216,949	783,051	1,375,425
総会費	300,000	213,129	86,871	186,953
役員会費	700,000	246,980	453,020	513,682
役員会旅費	1,000,000	756,840	243,160	674,790
事務費	2,740,000	4,918,512	▲2,178,512	2,609,885
業務委託費	450,000	457,500	▲7,500	450,000
通信印刷費	2,200,000	4,398,440	▲2,198,440	2,145,655
事務用品費	10,000	56,377	▲46,377	1,460
事務雑費	80,000	6,195	73,805	12,770
雑支出	40,000	39,107	▲35,107	47,413
慶弔費	10,000	24,822	▲14,822	7,413
退職者慰労金	30,000	20,000	10,000	40,000
雑損失		346,245		
運用収入正味財産繰入	20,000	102,154	▲82,154	19,828
特別補助	0	0	0	3,000,000
創立40周年記念寄付	0	0	0	3,000,000
予備費	100,000	0	100,000	0
当期支出合計(D)	13,270,000	12,934,316	335,684	14,636,205
当期収支差額(E)((A)-(D))	▲4,254,000	▲4,512,431	258,431	4,754,468
次期繰越収支差額(E)+(B)	5,402,422	5,143,991	258,431	9,656,422

科 目	2006年度	2007年度	増減 (B)-(A)
	(A)	(B)	
<b>資産の部</b>			
流動資産	9,676,767	5,185,661	▲4,491,106
現金	190,917	326,685	135,768
普通預金	4,995,851	491,161	▲4,504,690
郵便貯金	526,539	396,428	▲130,111
定期預金	3,963,460	3,971,387	7,927
固定資産	43,703,223	42,682,894	▲1,020,329
特定目的資産	43,703,222	42,682,893	▲1,020,329
学友会館建設定期預金	24,733,216	24,802,473	69,257
奨学金積立定期預金	18,970,005	17,880,420	▲1,089,585
有形固定資産	1	1	0
器具備品	1	1	0
資産の部合計	53,379,989	47,868,555	▲5,511,434
<b>負債及び正味財産の部</b>			
負債の部	20,345	41,670	21,325
流動負債	20,345	41,670	21,325
未払金	20,345	38,670	18,325
預り金	0	3,000	3,000
正味財産の部	53,359,644	47,826,885	▲5,532,759
(うち特定目的資産)	43,703,222	42,682,893	▲1,020,329
(うち正味財産増加額)	▲6,075,954	▲5,532,759	543,195
負債及び正味財産の部合計	53,379,989	47,868,555	▲5,511,434

## 監査報告書

私たちは、会則24条の規定に基づき、中日本自動車短期大学学友会の平成19年8月1日から平成20年7月31日までの2007年度における会務の執行並びに同事業年度一般会計について監査を実施しました。

監査の結果、会務の執行は法令及び規約に従い、総会並びに役員会の議決に基づき誠実に行われており、また、上記の一般会計は適正に処理されており、各計算書類は学友会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

平成20年9月10日

監査役 鈴木泰成



監査役 可知陽之郎



## 平成20年度 事業計画

- 1、総会  
● 大学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 2、会報  
● 見やすく体裁を検討する。  
● インターネットへの移行を検討するためにアンケート調査と移行した時の問題点の把握を行う。
- 3、学友会ホームページ  
● 内容を充実させる。
- 4、支部活動  
● 学生募集と会員の親睦をもてる積極的な支部活動を行う。
- 5、キャンパス・グッズ  
● 活用方法を検討する。
- 6、学園・大学との懇談  
● 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 7、準会員との交流  
● 学生会自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定。
- 8、退職者記念品  
● 定年退職者に記念品を贈る。
- 9、卒業記念品  
● 学友会規約を配布する。  
● 3千円程度の記念品を贈る。
- 10、奨学金  
● 在学生に対して奨学金を支給する。
- 11、OBへの福利厚生  
● リトル・フォレスト、明治村の割引を行う。
- 12、大学への協力体制  
● 学生募集への協力をする。  
● (同窓生子女推薦を増やすために、協力する。広報活動でのソラーカー貸出しを行う)
- 大学主催のエコノパワー大会に協賛する。
- 13、その他  
● 学友会設立40周年事業を行う。

### 編集スタッフより

学友会会報27号発刊にあたり、ご協力いただきました皆さまに心より厚く御礼申し上げます。